



福島県立梁川高等学校  
令和元年9月26日  
校長だより  
知性 誠実 責任  
第40号

## ■ 総合的な探究の時間 — 1年生 —

1年生では、総合的な探究の時間で「伊達のひみつ」づくりとして、班ごとに調査活動を行いレポートにまとめ発表会を行いました。

### 〈天蚕について調べたこと〉

- [動機] ① 伊達市の特産品として「天蚕」がホームページに載っていた。  
② 緑色の繭の美しさに心惹かれ興味がわいた。
- [内容] ① 梁川町に住んでいる三田村敏正さんが天蚕に詳しいと知りインタビューをお願いした。  
② 実際に天蚕を育てている奥山俊雄さんのところに行き、本物の繭を見せてもらいながら話を伺った。  
③ 天蚕はヤママユの別名で繭から取れる糸は、強い光沢と美しい緑色、その希少価値から「繊維のダイヤモンド」とも呼ばれている。  
④ カイコは家蚕、天蚕は野蚕で、カイコはふ化の時期を調節し、年に何度か収穫できるが、天蚕は夏に産卵し、卵で冬を過ごし、若葉が出る頃にふ化する。  
⑤ 繭は一本の糸からできており糸の長さは約600mから700mほどになる。

### 〈広瀬川に生息する生物について〉

- [目的] ○ 伊達市を流れる広瀬川に生息している生物を調べる。
- [内容] ① 川の生物に詳しい福島県農業総合センター浜市域研究所の三田村敏正さんに話を伺った。  
② 広瀬川では昔土砂崩れがあり、生物が住みにくい環境になってしまった。  
③ 人の手によって持ち込まれた外来種の生物や日本国内の他地域から人工的に持ち込まれた国内外来種の生物が多い。  
④ 外来種が持ち込まれ、もともと広瀬川にいた生物の生態系が崩れ数を減らした。  
⑤ 川へごみを捨てたり生物の生活環境を汚したりする行為を減らし、川をきれいに保てるよう心がけ日本の生物が住みやすい環境をつくりたい。

### 〈伊達市のもも〉

- [内容] ① 伊達市の桃について調べるために、保原にある斉藤果樹園さんにご協力いただいた。  
② 斉藤果樹園さんは、東日本大震災後の2012年に福島県で初めてタイへ桃を輸出した。今は、タイ、マレーシア、シンガポールに輸出している。震災前は香港にも輸出していた。  
③ 収穫して傷んでいる桃は、出荷できないためジュースとして販売している。

- ④ おいしい桃を収穫するために、どの桃農家さんも努力を積み重ねている。それでも気候などにより桃の味は大きく異なってくる。収穫時期の天気は影響が大きく収穫前に雨が降るだけで糖度が1～2度ほど落ちることもある。

### 〈梁川に来る野鳥たち〉

- [内容] ① 野鳥の会に所属している矢吹正さんに話を伺った。
- ② 梁川の野鳥は、冬に多く現れ夏はあまり集まらない。1日に60～70種類の野鳥が見られる。天気がわるくても20種類は見られる。
- ③ 梁川にはツバメの集団ねぐらがある。河原やその他の湿地にある草地にねぐらが形成されることが多い。
- ④ 梁川にはたくさんのツバメがシベリアから餌を求めてやってくる。ツバメのねぐらは日本ではあまりないので、梁川の大切な財産になる。
- ⑤ 4人で行ったときは、ねぐらを見ることができなかった。後日、矢吹さんから電話があり、ツバメのねぐらが見つかったということで、5時30分に梁川駅で待ち合わせをして観察することができた。

### 〈伊達市と伊達氏〉

- [内容] ① 源頼朝の奥州征伐が行われた文治5年（1189年）に、頼朝公に従軍した常陸国の中村一族は、この戦での功により頼朝公から伊達郡を賜った。そして、氏を伊達と称することになった。
- ② 伊達氏初代朝宗は、高子カ岡館に城館を構え、鎌倉の鶴岡八幡宮を勧請した。伊達市保原町高子が伊達氏発祥の地である。以後、伊達氏は梁川、栗野大館、桑折西山など伊達地方を本拠として勢力を拡大していく。
- ③ 梁川八幡宮は伊達氏ゆかりの神社として知られ、第17代伊達政宗も天正10年（1582年）出陣に際し戦勝祈願を行っている。
- ④ 梁川城は鎌倉時代に築城されたと伝えられ、第11代持宗から第14代伊達植宗の時代に伊達氏の本拠地として使用された。第11代持宗が城と城下町を整備し、第12代成宗が京都の東山文化を強く意識して「心字の池」を含む本丸庭園を造ったといわれている。
- ⑤ 伊達市と伊達氏には深い関わりがあることを知った。伊達市をPRすることは、伊達氏の魅力を伝えていくことにもつながる。両方の伊達をPRしていきたい。

### 〈阿武隈川の現状について〉

- [内容] ① 福島県と宮城県を流れる阿武隈川は流路延長239kmで、東北地方では北上川に次ぐ長さである。古くは大隈川と呼ばれた。
- ② 阿武隈川の魚について詳しく知るために阿武隈川漁業協同組合の事務局長である堀江清志さんに話を伺った。
- ③ 放射線の影響と基準値を超えるセシウムが検出されてしまったため現在は魚をとることができない。来年には解禁になることが期待されている。
- ④ 阿武隈川漁業協同組合では、線量を調べるために、阿武隈川でとれた魚を冷凍し試験場に持っていくことを行っている。